



拓北・あいの里地区社協ミニ通信

拓北・あいの里地区社会福祉協議会

会長：渡邊 寛 広報部長：森下 満

この広報紙は赤い羽根共同募金の支援を受けています

No 96

令和 7年 4月 21日

**4月9日(水)に社協常任理事会が行われました。
各部の活動状況と今後の予定についてご報告します。**



すっかり春めいてきました。あいの里中央公園を散歩する人たちが戻ってきています。もうすぐ桜の開花が見られそうです。

■ ボランティア企画部より ■

- ・生活支援ボランティアの活動が継続して行われています
- ・3月上旬にスポット除雪の依頼が1件。同じ依頼者で4度目になります。
- ・部屋の掃除の依頼に対して、3月中旬と4月上旬の2回実施しました。同じ依頼者で4度目になります。
- ・ごみ出し及び買物代行の依頼が3月末にありました。

■ 総務部より ■

- ・当会全部員対象の福祉をテーマにした研修会と、率直な意見交換の機会として懇談会を開催しました。3月14日(金)18時から20時30分、地区センター2階集会室A・Bで、参加者は30名。研修は「阪神・淡路大震災から30年ー当時の体験に学ぶ家族・ご近所の大切さ・温かさ」と題し、当会副会長・柴田が講演しました。
- ・令和7年度定期総会が5月24日(土)14時から、地区センター1階多目的ホールで開催予定です。内容は令和6年度の報告事項ー事業報告、決算報告、監査報告、並びに議案事項ー規約改正案、令和7年度の事業計画案、予算案、役員選出案、についてです。

■ ふれあい交流部より ■

- ・4月10日(木)の「ひまわりクラブ」は地区センター和室に2組5名の親子さんが参加され、自由遊び、絵本の読み聞かせ、「むすんでひらいて」の歌と踊りを楽しめました。今年度は、出席カードやお誕生日カードを用意してお待ちしています。端午の節句のフォトスポットコーナーも設け、記念になる写真撮影ができました。5月も設けますのでぜひ遊びにいらしてください。次回は5月8日(木)10:00~11:30、地区センター和室にて開催予定です。



4月10日のひまわりクラブで設けられた、端午の節句のフォトスポットコーナー



2組5名の親子さんたちが参加したひまわりクラブで、絵本の読み聞かせをしている様子



地区センター28名、オンライン3名、合計31名が参加した、3月18日の地域ケア部の例会



地域ケア部の3月例会で紹介されたドキュメンタリー映画「普通に生きる～自立をめざして～」

■ 地域ケア部より ■

3月例会は18日(火)18:30~20:00、本会地域ケア部副会長・拓北あいの里ケア施設町内会事務局長・長谷川聡(はせがわ・さとし)をゲストに「福まちYouTube案内~その1.認知症・心身障がい」をテーマに、地区センター2階集会室にて話題提供をいただき、意見交換を行いました。

地区センターでの対面とオンラインでのハイブリッド方式で行われ、参加者は地区センター28名、オンライン3名、合計31名。

話題は、YouTubeで公開されている、福祉、医療等にかかわる10本のドキュメンタリー映画の1~2分ほどの予告編を観ること、それをとおして福祉のまちづくりのきっかけづくりとすること、です。

コンテンツは、(1)はじめに、(2)認知症、(3)精神障がい・心身障がい、(4)おわりに、です。

(1)はじめに：「星に語りて～Starry Sky～」。長谷川のアイデアに始まり、連町・社協・民児協・まちづくりセンターの4者の主催により、拓北・あいの里地区研修会一映画で学ぶ地域の絆「星に語りて」上映会が、2019年11月21日（木）13:30～（参加者134名）と18:30～（参加者102名）の2回行われました。このセミ・ドキュメンタリー映画は、2011年3月11日の東日本大震災時における障がいのある人の状況と支援者の活動を描いたものです。

(2)認知症：認知症をテーマとするドキュメンタリー映画は以下の3本。①「ぼけますから、よろしくお願いします。」は、娘である「私」（監督・信友直子さん）の視点から、認知症の87歳の母を抱え、初めて家事を行うことになった95歳の父との3人家族の内側を丹念に描いたものです。②「徘徊 マリリン87歳の夏」は、大阪北浜に住む認知症の87歳の母（愛称マリリン）とその娘さん、そして周囲の人々の姿を描いたものです。昼夜の別なく近所を徘徊する母とそれを見守る娘の姿は、近所の誰もが知っています。徘徊モードが一息つけば、母娘一緒に居酒屋やバーにも立ち寄ります。そんな2人の生活は6年になりますが、それが母娘にとっては普通の生活であり、そんな母娘をごく普通に接する近所の人たち。③「僕とケアニンとおばあちゃんたちと。」は、神奈川県藤沢市にある介護施設「あおいけあ」を描いたものです。施設は常に、利用者や介護スタッフの笑い声で溢れ、その人らしい生活を送れるよう支える自立支援ケアは、あおいけあ流として多方面に影響を与えています。人生を謳歌している認知症のお年寄りたちの姿に驚きながらも話題の介護施設のウラやオモテ、その秘密も明らかにしていきます。「認知症になっても、料理も、子守りも、恋もする。」



地域ケア部の3月例会で紹介されたドキュメンタリー映画「ぼけますから、よろしくお願いします。」

(3)精神障がい・心身障がい：精神障がい・心身障がいをテーマとするドキュメンタリー映画は以下の5本。①「どうすればよかったか？」は、映画監督の藤野知明さんが統合失調症を発症した姉と、彼女を精神科の受診から遠ざけて部屋に閉じ込めた両親の姿を20年にわたって自ら記録したものです。監督メッセージ：我が家の25年は統合失調症の対応の失敗例です。どうすればよかったか？このタイトルは私への問い、両親への問い、そして観客に考えてほしい問いです。②「ちづる」は、監督の赤崎正和さんが、重度の知的障がいと自閉症を持つ20歳の妹と母親の日常を1年にわたって撮影し、自身の大学の卒業制作とした作品です。③「今日も明日も負け犬。」は、起立性調節障がいのため学校に通えなくなってしまった高校生の物語で、高校生が自らの経験を本にまとめ、仲間たちとセミ・ドキュメンタリー映画に作りあげたものです。④「友達やめた。」は、聴覚障害の監督とアスペルガー症候群の友達との実録です。監督メッセージ：この映画が「〇〇でなければいけない」と自分で自分を縛り付けていた縄をほどき、あなたが気にかけているあの人との人間関係を見直すきっかけになったら、こんなに嬉しいことはない。⑤「普通に生きる～自立をめざして～」は、日常生活のすべてに手助けと医療的ケアを必要とする子をもつ親の多くは、「もし自分になにかあったら、この子はどうなるの？」と大きな不安を抱えています。この映画は、重い障がいをもった我が子と地域の中で普通に生きるために親の会を立ち上げ、行政を突き動かし、理想の通所施設「でら～と」を立ち上げた、静岡県富士市・富士宮市に住む親の取り組みと自立への試みを5年にわたり記録したものです。

(4)おわりに：「生きるのに理由はいるの？」。2016年7月に起きた「津久井やまゆり園」事件、障がい者の大量殺傷事件を追ったものです。監督の澤さんは、この映画は「討論材料を提供するために作った」とおっしゃっています。なお、この映画は、拓北あいの里ケア施設町内会・当地区社協主催の「映像と語り合いで学ぶ福祉のまちづくり講座」として、3/22（土）13:30-15:30、地区センター福まの部屋にて、定員12人（連町・単町、地区社協、民児協の役員・会員、ボランティアと地区関係者限定）で上映されたものです。詳細は未定ですが、来年度内に一般公開の予定です。乞うご期待！

最後に、YouTubeでこれらのタイトルを検索すると、予告編のほか特報やメイキング、インタビューなど様々な動画が観られます。タイトルによっては本編やその短縮編が観られるものもあります。ぜひご覧ください。

なお、4月例会は15日（火）18:30～20:00、地区センター2階集会室にて、あいの里アットホームクリニック（南あいの里5丁目6番10号 グランディール303号）副院長・伊藤朔（いとう・はじめ）さんをゲストに「訪問診療とはなんだろう」をテーマに、話題提供をいただき、意見交換を行いました。その内容については次号の97号で報告いたします。

◇ 今後の予定 ◇

5月例会は20日（火）18:30～20:00、地区センター2階集会室にて、当日参加の皆さん全員をゲストに「このまちを語り合う茶話会～住んで良かったと思える福祉のまちづくりのために～」をテーマに、話題提供をいただき、意見交換を行う予定です。

地区センターでの対面とオンラインでのハイブリッド方式で行います。「ケア施設町内会会員メーリングリスト」登録者にはZoomアクセス情報をお知らせします。その他の方はケア施設町内会事務局・長谷川までメール hasepy55@gmail.com でお問合せ下さい。